学校だより

茨木市立西中学校
1月　No.11
発行責任　松田勝樹

「あけましておめでとうございます」と J4・班

始業式 講話より

あけましておめでとうございます。 ところで、「あけましておめでとうございます」とは、どんな意味なんでしょう。 それは、年が明けると年神様(としがみさま)がやってきます。そして、その年神様は、みんなに「幸せ」や「良くなる力」を持ってきます。 だから、「あけましておめでとうございます」というのは、「合格おめでとう」とか「誕生日おめでとう」と一緒で、年神様が自分にも他の人にも「幸せ」や「良くなる力」をもってきたことを感謝し、その喜びを伝えるという言葉なんです。

実は、お年玉というのも、元々 年神様がもってきた「幸せ」や「良くなる力」の魂(たましい)のことなんです。 だから、お年玉というのは、元々は、年神様から「年(とし)の魂(たましい)」＝「幸せや良くなる力」をもらい年が1つ増えるという いわば誕生日のプレゼントのようなものだったのです(数え年では1つ年が増える。10月生まれの人は生まれた時に1歳となり、次の正月で2歳となる)。

では、ここで 2学期の終業式での話を思いだしてください。

キリスト教とかイスラム教、ユダヤ教というのは、契約宗教と言いました。簡単に言えば、キリスト教ならイエスキリストさんのファンクラブの入会契約をしてファンクラブの会員になるようなものです。 だから、年の初めより、イエスさんが生まれた日の方が大事な日となり、12月25日にイエスさんが生まれたことをみんなで感謝し、喜びあうのです。

そして、イエスファンクラブの人は、イエスさんの教えを守って生活するなかで、人間として大切なこと、たとえば一生懸命に勉強するとか、時間を守るとか、仲間を大切にするとか、そんな人として大切なことを身につけていくのです。

ついでに言っておきますと、仏教は、お経や念仏を唱(とな)えたりして仏(ほとけ)の心に近づく(発見・自覚する)ことで、人間として大切なことを身につけるという 発見宗教・自覚宗教 なのです。

それに対して、日本の元々の宗教は、生活の中にたくさん神様がいて、生活するなかで知らず知らずに大事なことを身につけるようになるという 生活宗教 なのです。そして、ゴッドやアラーのような絶対神がいないので宗教とは意識されず、どちらかと言うと生活の知恵が凝縮した文化とか集団のルール・マナーと理解されている面があります。

たとえば、悪いことをしたらアカンという人間として大切なことを神様の教えではなく「世間様から後ろ指をさされるようなことをしたらアカン」とか「ウソは泥棒の始まり」という集団のマナーとして身につけるというやり方です。また、物を大切にするということも、使い終わった針を人間が死んだ時と同じように供養(くよう)する針供養という文化に接する中で身につけるのです。 さらに、授業の初め(終わり)や野球部が運動場に入る時(出る時)に「礼」をするのは、「場の神様」に「勉強や野球をさせてもらってありがとうございます」とか「一生懸命、この場で勉強や野球をします」という感謝や決意を表す仕草だと先生は思っています。

同じように、正月には、「あけましておめでとうございます」と声をかけあう生活を体験する中で、人間として大切なこと、たとえば、相手の幸せを願う心とか時間の区切りを大切にする姿勢とか、そんなことが自然に身につくようになっているのです。

ついでに言っておきますと、日本のキリスト教徒の人はローマ法王もすばらしいと褒めておられます。仏教徒の方も評価が高いです。　それは、元々の日本の生活宗教のうえにさらにキリスト教や仏教の教えを取り入れているからです。

さて、先生が4月の最初の集会で、年神様と同じ話をしたのを思い出せる人はいますか？

その時に、先生は、「みんな良くなりたいという気持ちを持っている、良くなる力を持っている」「その気持ちや力をこの1年間忘れないでください」と言いいました。これは、年神様が「幸せ」や「良くなる力」を持ってきて、みんながそんな力を持っているということと同じ意味のことを言ったのです。

そして、学校では、みんなの心の中にあるその「良くなりたい気持ち」や「良くなる力」を神様の教えを守るとか念仏を唱えるという宗教的なことをせずに、J4で時間を大切にするとか、班は居場所ということで仲間を大切にするとか、そんな生活を体験するなかで知らず知らずに「自分が良くなる力」や「みんなで良くなる力」を身につけるように西中学校はなっているのです。

そうやって、学校で身につけた力が終業式で話をした東京オリンピックの時に外国の人が日本人を見て、とても時間を大切にする、日本の高度経済成長の秘密はここにあると言わしめたその力の源です。
また、東北大震災の時の助けあっている日本人を見て、日本人はマナーが良い、経済や軍事の数字では表されない人間の豊かさや国の豊かさを日本人や日本という国は持っていると言わしめたその力の源なのです。

ぜひ、新しい年を迎えて、「あけましておめでとう」と挨拶しあって、お互いが今年も幸せになるようにと喜びあう、そういう生活体験をしているみんなには、その意味をかみしめて、みんなが良くなりたいという気持ちを大切にできる、そんな3学期にしてほしいと思います。
そして、3年生には、その良くなる力を発揮して進路にのぞめる3学期にしてほしいと思います。

※　昨年度は出雲大社に日本中の神様（八百万（やおよろず）の神）が集まって60年ぶりの引っ越しをしました。
また、天照大神（あまてらすおおみかみ）を祭る伊勢神宮でも20年ぶりの引っ越しがされました。
きっと、今年の3年生に「幸せ」を運ぶ神様は、パワーアップしていると思います。

12月1日「西中校区の集い」

今年度で５回目の
校区の集い。
すっかり地域の行事
として定着しました。
ＰＴＡの皆様、ご苦労様でした。